

公立学校情報機器整備事業に係る
各種計画

令和6年5月

川西町

(別添 1)

【川西町】
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	388	373	356	329	297
② 予備機を含む 整備上限台数	446	429	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	373	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	373	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	100	100	100	100
⑥ 予備機整備台数	0	56	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	56	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	13			

(端末の整備・更新の考え方)

本町では、令和 2 年度に購入により各校の端末を整備しましたので、5 年間が経過する令和 7 年度に、県域の共同調達による更新を予定しています。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

本町における対象端末は、全て購入で整備しています。新端末購入時に旧端末を確認し、継続して使用可能な端末は、各校の要望と端末の状態等を確認した上で、校内支援員等の業務端末としての活用や、授業等の補助端末としての利用を検討します。

また、再利用できない端末については、資源有効利用促進法に基づき、確実に再資源化を行います。

(備考)

(別添 2)

【川西町】
ネットワーク整備計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合	100	100	100	100	100
アセスメントの実施有無	無	無	無	無	無
(アセスメントにより明らかとなった課題) 各校で 10Gbps の通信最大速度（理論値）のネットワーク環境を整備しています。現状の通信環境のアセスメントから、教員、児童による校内での端末利用における現時点での不具合は確認していませんが、引き続き通信速度の確認と環境整備に努めます。 (課題解決の方法・予定) 令和 7 年度に端末の更改が予定されているため、新端末を使用した場合の通信状況を確認し、仮に十分なネットワーク速度が確保できない場合は、必要に応じて環境を整備します。 (備考)					

【川西町】
校務DX計画

文部科学省では、令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務DXの方向性を示したところです。今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合、更にスムーズな校務を運営するための校務支援システムの整備を行うとともに、GIGAスクール環境の積極的な活用により、クラウドを活用した教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の業務負担軽減、コミュニケーションの迅速化や活性化を加速させます。

教職員間で情報伝達を行う場合、授業のため職員室に在席する時間が少ない教員は、各々の業務スケジュールの中で管理職や各教員から発出された情報を収集、伝達しなければならないため、素早く正確に「自らのタイミング」でコミュニケーションを取ることが求められます。Google Workspaceを教職員間で広く活用し、日常的なClassroom上での交流が当たり前となりつつあります。

また、令和5年度には、校内のサイネージに、各教職員が入力した学校行事、出張、休暇に関する情報を一元化して2年先まで表示できる仕組みを作りました。これにより、教員間のスケジュール管理や調整が容易となり、教員の業務の効率化を図ることができています。長期休業中の動態表も同様に、Google Workspaceを活用してペーパーレス化しています。

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく調査として、保護者や児童に対する連絡ツール等は既に導入し、会合などのオンライン形式を基本導入してハイブリッド式で運営するなど、保護者や児童にとって負担が軽減されたシステム、ルールで運用ができています。一方で、職員会議などのハイブリッド化や学校説明会等のオンライン形式には対応できていないことや、FAXや用紙回覧等、紙媒体のみによる情報共有を継続している部分もあります。対面形式やペーパー利用によるメリットを感じるものについては、更なる改善を検討することで、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策」の提言に対する校務処理の負担軽減を図ることを求めています。

今後、行事予定表、下校時刻表等の管理職が作成する書類において、データが共有できる部分はGoogleスプレッドシートの参照機能を利用して、全てデータ連携する仕組みを構築します。また、教職員が回答する膨大な量の国や県からの調査報告を、紙ではなくデジタルデータでアーカイブし、過去データの参照や比較が容易に行える仕組みを構築することで、職員全体の事務業務量を削減していきます。

(別添 4)

【川西町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」により、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の実現について示されています。ICTを活用しながら学びへの興味関心を高め、児童同士または児童と教職員間の対話を活性化させ、広く深い学びを創出しています。Google Workspace for Educationを用いて学習の過程を見合い深める中に、この視点を持って取り組むとともに、個々の特性や理解度に応じた指導や、興味関心を育む学習を通じて個別最適な学びを、また、学習しやすいICT環境を整えることで、他者参照や協働を推進し、協働的な学びを深めていきます。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に校内ネットワークの構築、1人1台端末や電子黒板の導入を行いました。また、ICT支援員の配置による、スムーズかつ効果的な端末利用、ICT使用環境の構築を行ったことにより、教職員や児童の学習活動がより良いものとなっていました。

環境整備を進めたものの、ICTを取り入れた学習が各教員によって差があり、校内全体で足並みを揃えて有効的な活用ができていない部分もありました。他校や外部視察等の結果を再確認し、効果的なICTの活用が児童の学習に大きく影響していることを学校全体で再認識することで、誰一人取り残されない学びを保障していきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用を再加速させるため、週3回以上の利用を域内で徹底し、教職員と児童のコミュニケーションへの活用や、児童が自身の特性や理解度、進度に合わせて課題に取り組む環境を域内に整えます。そのため、端末の整備・更新においても、現在の整備状況を維持し、確実な整備・更新を行います。ICT支援員も引き続いて配置を行い、利活用において教職員・児童がつまづくことの無いよう支援体制を整えます。

また、不登校児童や外国人児童、特別な支援を要する児童においても、児童それぞれの特性に応じた積極的なICT機器の活用により、各々の学習活動を支援します。